

浄土ヶ浜にて



思い出の一枚 ~当園使用家からのご投稿~

◆佐々木郁文さん 写真家

「祈り」をテーマとした撮影をライフワークとし、その作品群の印象から“水と炎の写真家”と呼ばれる。

# 靈園だより 2010.11 Vol.12

発行：財団法人みやぎ靈園

住所：〒989-3121 仙台市青葉区郷六字大森2-1

電話：(022) 226-2440 Fax: (022) 226-3238

URL <http://www.miyagi-reien.or.jp/>

Mail:aoba@miyagi-reien.or.jp



## トピックス

新しい墓地区画を造成いたしました。

お申込みを募集いたしております。ご親戚・お知り合いをご紹介ください。



見晴らしの良い  
墓地区画です

墓地永代使用料 0.8坪 60万円  
1坪 70万円～  
1.5坪 90万円～  
芝生区 80万円

墓地管理料 0.8坪～ 13,986円～  
(3年分) 芝生区 18,600円

\*成約した場合、ご紹介していただいた  
ご使用家様には、1万円の商品券を進呈  
いたします。

資料パンフレットをお送りいたします。  
電話022-226-2440（管理事務所）又は、  
同封の葉書にてお申し付けください。



## お知らせ

### 墓地管理料について

ご使用家様で管理していただく墓地の内を除き、待合室や緑地植栽、園内共有部分の施設管理や事務管理などの霊園運営に要する費用は、皆様にお支払いいただく管理料によってまかなわれています。

管理料は、所定の期日までにお支払ください  
ますようお願いいたします。



### 車上盗難にご注意ください

駐車中に、貴重品盗難の被害にあう方がいらっしゃるようです。車内から見えるところにバックなどが置いてあると、鍵をかけていても窓ガラスを割られることがあるようですので、車上あらしには十分お気をつけください。



## ご使用家からのお便りコーナー

みやぎ靈園をご使用いただいている方からのご寄稿です



### 「年賀状随想」

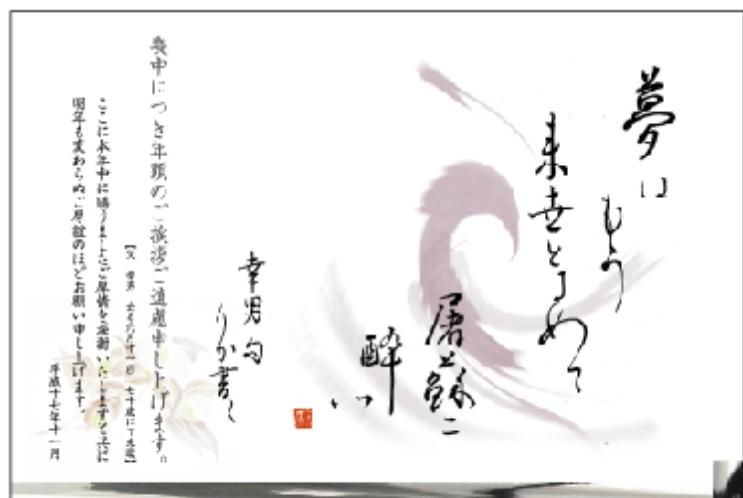
毎年冬時期になると、そろそろ…と思う年賀状。メールや携帯電話ばかりのコミュニケーションが常になっている日々の中で、筆マメで無い自分がやはり年賀状だけは一筆したみたいという気分になるのが不思議なものである。私自身の職業柄（広告のデザイナー）のせいか、何かこだわったものを創りたくなる性がそうさせているのかもしれない。

さて年賀状というと、絵てがみとして描かれたり、現代では家庭内のパソコンでプリントアウトしたり、また豊富なデザインの年賀状印刷に発注する等、多種多様である。かなり選択の幅があるのに対して、喪中欠礼のハガキというは何故ありきたりのものしか無いのだろうか？ということに気付く。確かに喪に服すため白黒・地味に簡素なデザインというのは、致し方ないとは思えるが、もう少し色々なスタイルがあつてもいいのではないだろうか。私事だが数年前に父を亡くした際に、急遽必要に駆られてその様に感じた次第で、それならば先ず、自分でデザインしてしまおうと思ってやってみたわけである。

せっかくなので、僭越ながら掲載させていただきつつ紹介したいと思う。亡き父は定年退職後に俳句や短歌等の文筆に熱中し、暇さえあれば一筆したため公募に出品しては稀に入選したり等、色々と書いていた様であった。そんな数ある句の中から、故人らしいものを選んで母がイラストを描き、句を妹が筆で書き綴り、自分がデザインにまとめたという異色の家族コラボ作であった。家族が逝った後は何かとせわしないものであるが、こういうモノ創りに関しては意外に一致

団結して楽しみながら作り上げたので、特別の思い入れがある。故人らしいモノが、ささやかでも何かを残すというのはハガキにせよ何にせよ良いものである。生前はほとんど親孝行らしきことが出来ず駄目な息子であったが、これが最初で最後の親孝行になるのだろうか？

想いを文にしたためること、絵に描いたり、音に紡ぐこと…手段を問わず自分にとってはもはやライフルになっているのかもしれない。ひとつの絵や音に様々な出逢いがあり、観る方聴く方の気持ちのどこかに響く何かが共鳴して、大きな和になっていく様に…そんな繋がりをひとつひとつ大切にしていきたい。年賀状も私にとっては、重要なコミュニケーションツールのひとつであり続けるだろう。



「夢はもう 来世ときめて 屠蘇に酔い」

宇都宮理人（うつのみやまと）さん

アートディレクター 音楽家

■広告代理店勤務 広告の企画デザインやTVCM、WEBのプランを行う傍らCMやミュージアムコンテンツ等の作曲や演奏活動を行う。

<略歴>

2002年 日本栄養士会シンボルマーク大賞受賞

日韓現代美術交流展出品

2005年 仙台広告賞 大賞受賞（たまご舎）

2010年 東北生活文化大学シンボルマークデザイン

他、出展多数



<音楽歴>

1997年 東京南青山スパイナルガーデンXmas音楽作曲

2003年 宮沢賢治イーハトーブ館 風の又三郎公演 朗読と音楽イベント出演

2005年 仙台市天文台開台50周年記念楽曲の作曲

2007年 仙台文学館 島崎藤村と仙台 朗読との共演

（他、土井晩翠、宮沢賢治イベント等）

二胡演奏家 相田雅美とのユニットで様々なイベントに出演

2010年 みやぎ靈園 ふれあいコンサート出演 他多数

### みやぎ靈園の法事室が新しくなりました

納骨法要・回忌法要など皆様のご都合にあわせてご利用ください。

**要予約 Tel 022-226-2440**

**料金 525円/人 (30名様まで)**

\*彼岸・お盆の繁忙期はご利用できません



法事室→

←お客様控室



### 提携している周辺の法宴施設

#### 料理仕出し

一燈明 みぶな

0120-155-327

魚長

022-263-7131

味の金魂

022-277-1041

#### ご会食施設

仙台 勝山館

022-213-9188

伝承千年の宿秋保温泉 佐 勘

022-398-2233

青葉城 本丸会館

022-222-0249

懐石料理 東洋館

022-222-7019

・お申込みの際にみやぎ靈園使用家とお伝えください。



# 干柿

佐佐木 邦子

知人が絶賛した。「すっごくおいしいの。あんなおいしいもの、食べたことなかったわ」。珍しいものではない。干し柿である。会席膳のデザートに出たのだそうだ。あんまり熱っぽく言われるので、私も作ってみた。干し柿は苦手だが、そんなにおいしいなら食べてみたい。ラム酒に漬けて三つ四つに切り、塩漬けのシソの葉でくるんで冷やすだけだ。

なるほど苦手でも食べられる。でも知人が言うほどとは思えない。舌が鈍感になっているのかもしれない。私の場合、子どものころ干し柿が身近にありすぎた。私の親戚は、柿の本場である会津に集中している。どこへ行っても干し柿を出されたり、季節になればどっと送られてきた。好き嫌い以前に、舌の方で拒否反応を起こすようなところがある。

干し柿が甘くなると冬になる。私は干し栗も食べさせられた。そのほかトチの実は長い時間かけて水にさらすし、ギンナンはアク抜きの手間が馬鹿にならない。当たり前だけれど、干し柿は渋柿から作る。渋柿をうっかり囁いたことのある人ならわかるだろうが、あんなマズイものはめったにない。マズイ、というより、食べられる範疇を大きく越えている。渋柿を食べようなんて発想は、物がふんだんにあったらぶん出てこない。晚秋から冬にかけて、食料の不十分さをそんなふうにして補ったのだ。干し柿も干し栗もつましさそのもののような気がして、あまり好きになれなかつた。

でも干し柿は大事な保存食で、緊急非常食でもあった。携帯に便利だったし、修行僧が干し柿を持って山に籠もることもあった。人が死んだとき、

棺に干し柿を入れる地域もある。川が氾濫して人々が困っていたとき、干し柿を二十一個持つて川辺の穴に入った坊様もいた。毎日念佛の声が聞こえたが二十一日めに消えた。同時に大雨が降って河道が変わり、長年の洪水から村は救われた。干し柿一個が坊様の一日の命で、干し柿が人々の願いを天に届かせた。天から降りてきた天女が地上で唯一口にしたのが干し柿だった、という伝説もあるから、汚れのない神聖なものでもあったらしい。

ところで現代の干し柿。レシピをインターネットで検索してみた。なますやサラダはむろん、パウンドケーキに入れる、ヨーグルトをかける、クリームチーズとあえる、羊羹にする、棒タラと合わせる、等々。保存食で非常食で、足りない食料を補う大事な食品で、天と地の境で神秘的な力を發揮し、なおかつ和洋食の新しい食材。子どものころ、なんだ干し柿かと、地味なおやつが淋しかつたけれど、干し柿の奥深さに気付いていたら、もっと別の味わい方もあったろうに。

干し柿不感症になどならなかつただろうに。

干し柿の奥深さが子どもにはわからなかつただけだ。

佐佐木 邦子 (ささき くにこ)

- 小説家、シナリオ・ライター、日本ペンクラブ会員、日本民話の会・みやぎ民話の会会員、仙台市史編纂委員 他。
- 略歴／昭和56年宮城県芸術祭文芸賞(小説)、昭和57年宮城県芸術選奨新人賞(小説)、NHK仙台放送ラジオドラマ・コンクール最優秀賞。昭和59年中央公論新人賞(小説「卵」)受賞。昭和60年芥川賞候補(同)、小説やシナリオを書く一方、民話探訪の為に地域を歩く。
- 著書／「泥鬼」、「卵」、「オシラ祭文」、「宮城集治監」、「宮城県の民話」(共著・宮城県教育委員会)、「土地に根ざした民話」、「みやぎの女性史」(河北新報社、担当・芸術・民族)等。

\*このエッセイは、「こもれび」(H22.10墓石協力会発行)からの再掲載です。

\*佐佐木邦子さんのエッセイ集は、みやぎ靈園ホームページにバックナンバーとして掲載しております。



## NEWS ニュース

- 灵園の西側用地の造成工事をおこなっております。
- 新しい墓地区画を募集しております。お知り合いを紹介ください。
- 冬期間も中間トイレと7区前水汲場が利用できるようになりました。
- みやぎ靈園合同墓（仮称）を建立予定です
- ご法事室の休憩和室が新しくなりました。ご利用ください。
- 落葉や枯花供物、役目を終えた卒塔婆・骨箱の堆肥化に取り組んでいます。
- 彼岸・お盆に、おはぎを販売しています。
- ガラスのお墓（みやぎ靈園オリジナル）を展示しています。
- 西16区の駐車場が広くなりました。



[みやぎ靈園ホームページ](#)

[うっしー日記](#) | [お知らせ](#) | [催事](#) | [ふれあいゼミナール](#) | [バックナンバー](#) | [事業報告・情報公開](#)

少しずつですが、ホームページをリニューアルしています。ブログもあります。  
どうぞ、お立ち寄りください。

検索 [みやぎ靈園](#)

